

【知事定例記者会見】 10月13日

● 「佐賀県」×「かちどき」～防災ヘリ導入から1年半～

災害時、真っ先に飛び立ち情報収集

情報収集が何よりも大切だ。昨年の豪雨災害時、かちどきから土砂崩れの発生箇所を発見し、陸上のオペレーションにつながった。

日々、様々な現場で活動しています

実機を持つことで、各機関のヘリコプターの航空運用調整が可能になり、さらに大規模な災害が起きた際の対応能力が向上。様々な場面で活躍している。

水難救助では、浅瀬での船員の転落や波戸岬で釣り人が岩礁に取り残された際に出動し、地上の消防へ引き継いだ。

山岳救助では、黒髪山系で、自力歩行ができなくなった人をヘリのホイストでつり上げ救助した。富士町では、伐採木の下敷きになり左足を負傷した人を、地上と連携し好生館へ搬送。

鳥栖の山林火災では、赤外線カメラで延焼範囲の情報を共有。地上消防から空中消火の要請があり、バケットでダムから給水し、空中消火した。

救急搬送では、術後の治療のため、嬉野医療センターから福岡県内の病院へ。また、手術のため、好生館から熊本県内の病院へ、ドクターヘリのような活躍をした。

他県でも活躍

九州内で、相互に応援協定を結んでいる。

- ・2022年7月、宮崎県のヘリが保安検査中のため、行方不明者を山岳救助し、病院へ搬送。
- ・2022年4月、熊本県の野焼きが延焼し、熊本のヘリと2機で空中消火。

離島搬送

・延べ2,700余名の医療従事者を、ワクチン接種のため搬送。短時間で先行接種を可能にした。

- ・台風14号で停電が発生した際、早期復旧のためにスタッフと資材を搬送。

実動機関等との合同訓練

平時に、様々な合同訓練に参加し、有事に備え精度を高めている。
救える命を守るために、今この瞬間も活動しています。

● SAGA アリーナのグランドオープン日が決まりました

SAGA アリーナが着々と完成に近づいています

「する」「観る」「支える」というコンセプトで、スポーツ以外の展示会や会議などでの使い方ができる。主催者の使い勝手がいいように様々な意見を取り入れた。

国体仕様のアリーナは、通常バスケットコート6面以上をとる。しかし、あえて2面にし、観客席を増やした。それに対し、サブアリーナの床面積は、SAGA プラザ（旧総合体育館）と同程度の面積にした。アリーナとサブアリーナとが連携し、質のよい大会を開催できると想定している。先日の視察では、いよいよ椅子を搬入する段階だった。ぜひ、楽しみにしていただきたい。

グランドオープン日の発表の前に・・・私たちが大切にしているコンセプト

「Trial（トライアル）」と「Update（アップデート）」

皆さんと一緒に新しい試みをして、その状況に応じて修正していく発展型のアリーナにしたい。また、得られた知見を利活用・運営に活かし、進化させていく。人の人生のように成長するアリーナを目指す。

2024年までは国スポ・全障スポを中心にした利用になるが、その後は、他の用途でも熟練された使い方ができるようにしたい。最初が肝心。主催者、興行主やタレント間での評判が、その後の成否に影響する。最初の2年間は、成長を見届けていく熟成期間にしたい。

SAGA アリーナグランドオープン日を発表します

2023年5月13日土曜日に決定。記念式典を開催し、以降は一般利用も可能。最初の催しは、6月4日のSAGA アリーナオープン記念「With You！（ウィズ ユー）～佐賀

県文化・芸術祭～」を開催。県民がこのアリーナを育てていくのだという意味で、県民のイベントを選んだ。唐津くんち、キッズミュージカル鳥栖、ティーンズミュージカルSAGA、アルモニア管弦楽団、バレエ団、佐賀県の伝承芸能などの皆さんが集い、盛り上げていきたい。

ただ、バルナーズがプレーオフのホーム開催権を勝ち取った場合には、応援企画が入る可能性がある。試運転をしつつ、オープニングの準備をしていきたい。

予定しているイベントをご紹介します

- ・ 6月10～11日、オリンピックメダリストたちが参加するフィギュアスケートのアイスショー。
 - ・ ファーストライブは、まだ発表できない。乞うご期待。
 - ・ 7月29～30日、松任谷由実さんコンサート。アリーナツアーは、九州ではSAGAアリーナのみ。九州中からの来場が予想される。ホテルはほとんど埋まっている。
 - ・ 7月13～15日、日本ペインクリニック学会。2,500人が参加予定。
 - ・ 日本代表クラスのアスリートによるエキシビジョンマッチは、近く主催者から発表がある。
 - ・ 8月25日から27日は、ディズニー・オン・アイス。佐賀県では初開催。
 - ・ 2025年10月には、日本青年会議所の全国大会が佐賀で初開催される。
- 今後も様々なイベントを開催し、これまでにない大きなイベントを行う。

● 伊万里港がさらに飛躍します！

伊万里港は、コロナ禍においてもコンテナ貨物が順調に推移しています

コロナ禍で人流は厳しい状況だが、物流は順調に推移している。コンテナ貨物は、令和2年に過去最高、3年は過去2位。

8月28日に、臨港道路七ツ島線がオープンした。渋滞が大幅に緩和され、貨物輸送の効率化が図られた。

11月13日には、ガントリークレーンの2号機が供用開始。愛称は「まりん」、1号機は「いちごう」。令和5年度から、コンテナクレーンの増設を行う予定。さらなる容量に対応できる伊万里港を目指す。

東南アジア・台湾との輸出入を行った荷主に対する助成事業が好評で、新たに 24 社の新規利用が決まった。

8月4日から、上海直航便が週1便から2便に増便した。従来は、中国まで19日かかっていたが、5日に短縮。今後、東南アジア・台湾への直行航路の誘致を目指す。メリットは輸送日数の短縮、コストダウン、貨物への衝撃リスクの回避。

今後、国際物流拠点港として発展させていきたい。

- みんなが心地よく暮らせる人にやさしいまちのスタイル“さがすたいる”をさらに推進します

10月3日から、知的障害や精神障害の方々に働いてもらうために SAGA サポートオフィス「ウィズ」を県庁内に開設した。庁内の仕事をここに依頼し、障害者の特性や個性を発揮できる仕事は何かを試していく。試した結果が、今後の障害者雇用への足掛かりになるのではないか。

障害者の家族が運転する際は、使用目的や回数の要件、通院、通学の証明書が必要だったが、これらを廃止する。障害の有無に関わらず、すべての人が暮らしやすい佐賀県を目指す。

- ノリ落ち原因のプランクトンを減らすためサルボウの放流を行います

西南部では、ノリの色落ちが深刻。原因の一つが、二枚貝のサルボウが激減していること。サルボウはプランクトンを捕食するので、赤潮を抑えるのに有効だったが、サルボウが減少し赤潮の発生が頻発した。

今月下旬にサルボウの稚貝約100万個を、鹿島、太良地域の海に放流する。漁獲量が増えることを願う。

- 10月16日（日）にJR唐津駅で快速列車を運行します！

唐津線は、ロマンシングサガと一緒に盛り上がっている。さらに乗車率を上げるため、佐賀、久保田、小城、多久、山本、唐津のみに停車する快速列車を運行する。スタート割ロマ佐賀列車、周遊きっぷも利用可能。1日限りだが、トライすることに価値がある。